

らいふすてーじ創刊30周年を迎えて

1984



1994



30年前の1984年6月、『らいいふすてーじ』は京大生協の機関誌として誕生しました。創刊号の巻頭には、『らいいふすてーじ』を①おもしろくて役に立つ内容にしていくために、②むだなく、速やかにみんなに届けるように——。この2つについて組合員のみんなで知恵と力を出し合っていました。」という当時の専務理事の言葉があります。30年たった今でも、この2つの目標は変わることなく、生き続けています。

この2つの目標を達成するためには何をすべきか。この答えを「読者の声を知ること」だと私は考えています。昔の『らいいふすてーじ』には読者の下宿を顔写真付きで紹介する記事があったり、読者と編集部員で討論をする記事があったりして、創刊当初から、読者の声を大切にしていたということがうかがえます。現在の『らいいふすてーじ』でも形は変われど、読者カードを通じて読者の声を積極的に取り入れようと考えています。30年たった今でも、機関誌として組合員の役に立つことを紹介しよう、読者の意見を反映させて読者と作り上げる『らいいふすてーじ』にしよう、という精神は変わりません。

2004



2014



私たちが編集する『らいいふすてーじ』が皆さんの生活にどれほどの影響を与えるのか定かではありませんが、こうして手に取って読んでいただいている読者の皆さんのために、より一層努力していきたいと思えます。また、30年間の『らいいふすてーじ』の歩みを読者の皆さんに知ってもらえるよう、展示企画「らいいふらいぶらりー」を開催します。ご来場を心からお待ちしています。最後になりましたが、読者の皆さん、今までご愛読ありがとうございます。よりよい『らいいふすてーじ』を作り上げるために、これからもご協力をよろしくお願いいたします。簡単ではありますが、以上を『らいいふすてーじ』創刊30周年の感謝の言葉とさせていただきます。

(第30代らいふすてーじ編集部 編集長)